

ジンリムカ 文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2021.10.22

No.12



旧マンロー邸及び敷地内の様子 邸宅前の並木道とその周辺が美しい庭園として整備されている

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 12—

旧マンロー邸（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

二風谷を流れるオサツ沢河口付近の右岸上に、N. G. マンロー（1863-1942）の住宅兼診療所があります。1933年に建てられてから1942年までの9年間、地域住民への医療奉仕活動や交流の場として用いられたほか、二風谷を主としたアイヌ文化研究の拠点施設でもありました。

邸宅周辺の6,000坪を超える敷地は、かつてマンロー夫妻が手掛けた果樹園でした。地域の生活向上を志し余市からリンゴ、新潟からナシ、山梨からブドウなどを取り寄せて栽培し、ゆくゆくはワインづくりも可能ではないかと考えていたようです。しかし、数年にわたって行われた果物づくりも、当時としては気候が合わず結果は芳しくなかったようです。そのほかにも実りの良い果物として、イチゴやグズベリーが植えられました。チヨ夫人らによる手製のジャムがクッキーとともに配られ、コタンの子どもたちのおやつとして喜ばれました。

邸宅を含む広大な土地は1966年以降、北海道大学が管理し現在に至っています。かつての果樹園の姿は今の敷地にありませんが、並木道と建物、庭園の雰囲気、マンローが住民と一緒に夢見た地域づくりの面影を感じることができます。



（長田佳宏）

N. G. マンロー

